



## タクシー政策議員連盟総会開催

6月13日(火)8時より参議員会館において、立憲・国民民主党を中心とするタクシー政策議員連盟総会が開催され、深刻な乗務員不足やライドシェア問題などについて政・労・使が一体となり議論を交わした。

冒頭、議連会長の辻元清美 参議院議員は、「コロナに起因する運転者不足や事業者の借入返済など、タクシー業界は喫緊の課題を抱えている。過去には誤った規制緩和策により運転者たちが窮地に陥ったが、ライドシェア導入という新たな過ちを起こさないためにも、事業者・労働者・国が三位一体となった取組みが必要であり、議員も一致団結しなければならない。」と挨拶した。

続いて労働者を代表してハイタクフォーラム 溝上代表幹事(全自交中央執行委員長)が「コロナの3年間で約57,000人の仲間が業界から去った。地域や時間帯によっては利用者の需要に応えられない状況もある。運賃改定の全国的な流れをバネに、より一層の利用者利便の向上に努め、タクシーが今後も持続可能な産業となるよう、要員不足に対し労使一体となって取組み、共に働く仲間が報われる施策の実現を目指す。」と語った。

また、ハイタクフォーラムからの問題提起として、全自交労連 津田 書記次長からライドシェア解禁派との闘い・二種免許の重要性・賃金労働条件の改善・営業所や遠隔点呼の要件緩和などについて昨今の情勢からみる問題点や危険性を指摘した。

意見交換では 吉田 統彦 衆議院議員(愛知)から「二種免許が不要な輸送の検討という報道は事実か。乗客の安全を守るためには取得・更新時において視力要件など、一種免許よりも厳しい基準を厳格に守り続けている二種免許は欠かせない。」と国と事業者に問い正した。

最後に小宮山 泰子 衆議院議員が「タクシーという公共交通を、今後も守り続ける為に仲間を増やしていく。」と締めくくった。